

平成6年 お伊勢さん125社めぐり (12回シリーズ)
 4月 大湊 - 神社めぐり (約16キロ)

〔コース〕
 宇治山田駅 河原淵神社 河原神社 山田奉行所跡
 御食神社 (スタンプ) どんどこ市 二軒茶屋餅 宇治山田駅

☆次回のご案内
 5月15日 (日)
 宮川めぐり 約15キロ
 集合：伊勢市駅 (JR側)
 9時40分～10時10分



帰りの電車 < 宇治山田駅 >

	名古屋方面	上本町方面
13時	03 ⑫ 52	29 35 49
14時	04 ⑫ 52	29 35 49

ラッキーカード
 抽選番号 503
 御食神社
 4/17
 当り (けんあ)

神社・大湊めぐり

○船江上社

東洋紡績に入る道に大きな社叢がある。船江町の産土神、船江上社である。

船江という名は、宮川の流れが、昔このあたりを流れていた頃の船着き場であったことを示すものである。

神社の前にある躰ヶ池とよぶ細長い池は、当時の宮川の名残を残しているものである。

御祭神は、水の守り神である澤姫神を祭る。境内社は箕曲社があり、箕曲氏の祖神、天牟羅雲の命を祭ってある。

◎河原淵神社（豊受大神宮摂社） 祭神 澤姫神

船江上社と同じ社叢の東に鎮座、社名は延喜儀式帳に川原淵社とあり、官幣の供進されることがみえていることから1,000年以上の古社である。

延喜の伊勢大神宮には	河原淵社
同 斎宮式には	川原淵社
同 神名帳には	川原淵神社

とみえている。宮川の下流に近い河原の淵になっているところに祭られた神社であることがこの神社名からもわかる。

神名秘書には箕曲郷勾村河原社の南、字鹽坪の向に坐せり、とある。中世以来社地湮滅して明らかでなかった。

寛文三年、大中臣精長、これを宇治山田市の北部檜尻の地に再興したが、固より正確な根拠があつてのことでなく、しかもその地が河涯にあり、洪水の患があるので、明治11年12月にこれを現在地に移した。

両宮摂社参詣記には、本社を此の所と書いてあるが、二宮管社沿革考にはこれを排して、神社町大字小木の曾祢社をもって本社の旧社と書いてある。

殿舎

正殿	神明造板葺南面	壹宇
玉垣御門	猿頭門扉付	壹間
玉垣	連子板打	壹重
鳥居	神明造	壹基

◎河原神社（豊受大神宮摂社） 祭神 川の神、水の神二座

檜尻を過ぎ、大湊へ向う道を進み、23号線を超える。左手の新開の宮川の支流の堤の下にあると案内書にあるが、現在は道路の両側は開発されて工場、人家が立ち並び川はない。

延喜大神宮式及び神名式には河（川）原大社とある。神祇本源所引の社記には、箕曲郷勾村に在り、祭神は川の神、水の神の二座とある。斎宮式には川原社とあり、宮川下流の田地（宮川下流の水の湾曲しているあたり）の守護のための神社である。

中世以後退廃し、社地明らかでなかった。寛文三年、大中臣精長が地名と伝説を考え現在地に再興、但し、両宮摂社参詣記には檜木尻の社をもって本社としている。神名帳考証再考の勢陽五鈴遺響等はこれにしたがっている。また、二宮管社沿革考には、神社町大字竹鼻の西南、田圃中の叢林をもって本社の旧地としている。

勾の地名は、鎌倉時代に光明寺書記等に載っている。（現在の御園村の東郷から神社町にわたる地域をさす。）

殿舎

正殿	神明造板葺南面	壹宇
玉垣御門	猿頭門扉付	壹間
玉垣	連子板打	壹重
鳥居	神明造	壹基

◎毛利神社（豊受大神宮末社）

河原神社の中に同座している。延暦儀式帳には毛理社とある。

長徳檢録には杜社とある。森の神木の神を祭った神社。森の神、木の神三社副にあり、と註がある。三社とは神名秘書及び社記の河原大社の註に「箕曲郷勾村字三津社」とある。したがって、もと河原神社付近にあった社である。

中世戦乱のため社地煙霧し久しく不明であったが、明治三年、これを河原神社の御殿内に同座再興、今日にいたる。

○山田奉行所跡

御園村小林に入ると山田奉行所がある。

山田奉行というのは、江戸幕府が伊勢神宮の政務を重大視し、神領地の政務執行、公事裁判、警備等のために設けた機関である。

慶長8年(1603)はじめて長野内蔵允友長を奉行に任命

はじめ陣屋は有滝町広山にあり、公事役所は高柳、下中之郷町、一之木町欣浄寺、吹上町一本木にあったが、陣屋が小林に移ったのは寛永18年(1641)、石川大隅守政次のときである。

有名な大岡忠相は18代目をつとめた。明治元年に度会府の設置まで約200年間の神領政治を執った。

◎御食神社 (豊受大神宮摂社) 祭神 大御食津臣命

鎮座地 伊勢市神社町大字神社港南小路

延喜式及び神宮式に載っている。豊受延暦神宮儀式帳には水戸御食津神社とあり、千年以上の古い社である。

水戸とは水の入りくんでいる港のことで、今の大湊から神社港のあたりの湾口を広くさす。

創立については、

大神宮本記に、倭姫命、皇大神を奉じて各地を巡りしとき、忌楯小野よりいでまししに、小浜のほとりに驚取老翁あり清水をささげた。命これをほめたまい、水門に水饗の社定めたまいし、と伝えている。境内の池は、以前は潮が出入りした入江の遺溝である。

大神宮に海産物の御料を調進した御饗の神を祭る神社である。

延喜大神宮式に御食社

斎宮式に 御饗社

神名帳に 御食神社とある。

外宮の摂社であるが、神社町の産土神として祭られている。戦国時代に社地がなくなり、寛文三年にこの地に再興した。

境内に「辰の井」というのがあるが、上記の清水の出た井戸という。一月の初辰の日には、水をもらう人で賑う。

神社町は、江戸時代から遠州、三河、尾張からの参宮客で賑い、小さい町であるが酒楼、旅館、遊廓が多く、その名残は戦前まで続いていた。

殿舎

正殿 神明造板葺南面 壹宇

玉垣御門 猿頭門扉付 壹間

玉垣 連子板打 壹重

鳥居 神明造 壹基

◎志賢屋神社（豊受大神宮末社） 祭神 塩土老翁

小林から川に沿って下ると、大湊町に出る。その堤防に沿ったところに志賢屋神社がある。志賢屋という社名は、長徳検録には塩屋社とあるとあり、御塩を焼く場所の守り神を祭った社である。

吉野時代の、神領給人引付という記録ではこの地を大塩屋御園といい、大神宮に御塩を献上していたことがわかる。また、伊勢湾に臨む宮川の河口として、この地に製塩業が盛んであったことが想像される。

祭神は海路守護の神も兼ねている。土地では古くからこの社を塩屋明神と呼び、神社の森を鷓の森と呼んでいる。

室町時代の明応7年、この地を襲った大地震、大津波のため本社もその厄にあい、社殿流出。寛永21年再興し現在に至る。

殿舎

正殿	神明造板葺南面	壹宇
玉垣御門	猿頭門扉付	壹間
玉垣	連子板打	壹重
鳥居	神明造	壹基

○鷺取小濱忘井の旧蹟

大湊の菊川鐵工所を過ぎ、西町のバス停でおり、西寄りの道を鐵工所を過ぎて進むと、松林の中に井戸と碑がある。

その昔、皇大神宮の御遷幸のとき、倭姫命が大御神を奉戴してこの地に巡幸し給ひしとき、鷺取老翁というもの、倭姫命に冷たき清水を奉った旧蹟であると伝えられている。

倭姫命世紀に見えている所であるが、これによりこの浜辺を鷺取小濱（現在の鷺ヶ濱）と名づけられ、この港に水饗社を定められたという。

この清水を汲み上げた井戸を忘井といい、周囲を御影石で囲み、保存されている。この由緒を伝えるために「水饗社旧蹟忘れ井」の碑文（大正8年）が建てられている。

大湊について

大湊という名は、太古から宮川と五十鈴川の河口が落ち合って水門（みなと）をなしていたために名付けられたものである。

また、度会という名も、この大湊にたくさんの船が渡り合ってくるためにつけられた名である。度会の最も早く開けたのがこの大湊であったことがわかる。

大湊は鳥羽と並んで、伊勢海上交通上の要地を占めたもので、南伊勢の文化は、この大湊から開発されたものともいえる。

大湊は河口にあるため、古くから造船航海のことが発達していた。

吉野朝と大湊

「歌書よりも軍書に悲し吉野山」

当時、伊勢には北畠親房の三子顯能が伊勢国司として赴任し、伊勢大神宮には村松家行、檜垣常恒、宮後朝棟等の勤王祠官がいて、大いに吉野朝の東方の守りに任じていた。

後醍醐天皇の延元三年（約640年前）東国の勤王軍を集めるため、義良親王、宗良親王をはじめ、北畠親房、同顯能、結城宗広等が伊勢山田に集結し大神宮に参拝、朝権恢復の祈願を込めた後、九月十二日、大湊より五十二艘の船（大湊由緒書による）に分乗し出帆した。

太平記には

「陸路は皆敵強うして通り難しとて、此の軍勢大湊に集りて船を調べ風を待ちけるに、九月十二日の宵より風やみ、雲をさまりて、海上殊に静まりたれば、船人纜を解きて万里の雲に帆を飛す。兵船五百余艘、宮の御座船を中に立て遠江の天龍などを過ぎける時に・　　・」

遠州灘に出たとき、大暴風の難にあった義良親王と北畠顯能は尾張の篠島に、結城宗広は伊勢湾海岸に吹き流された。

このとき、一行の乗船した場所が大湊のどこの地点であるかは判明しない。

昭和八年三月、三重県により日保見山八幡宮の裏の浜辺に

「義良親王御乗船地」

の碑が建てられた。

戦国時代の大湊

吉野時代から室町時代に移っても、大湊の水軍は戦国時代の諸英雄により利用され。

文亀元年(1501)には伊豆の北條早雲のために兵糧米の運漕にあたった。

天正元年(1573)には、織田信長のために兵船を準備し、

天正十一年(1584)には、本能寺の変に際し、帰国せんとする徳川家康のため大船を準備してこれを避難させた。(門屋七郎次郎秀持)

豊臣秀吉の朝鮮侵略(文禄の役)に際して、九鬼嘉隆の率いる日本水軍の軍船は、ほとんどここの大湊で造船したものであった。このとき造られた「日本丸」の龍首の飾がいまも神宮徴古館に保存されている。

大湊の海軍の記録文書は、伊勢市役所大湊支所と神宮徴古館にあり、日本海運史の貴重な資料となっている。

※参考資料 「神宮撰末社参拝」ほか

船江上社の御祭神

神社名 船江上社 鎮座地 伊勢市船江二丁目一〇番一四〇号

電話(七五)二四一五四二の番

神社行

船江 下車徒歩三分

大湊行

交通機関 国鉄伊勢市駅下車三交バス

主祭神

本殿 沢 姫 命 昔上船江の産神でした地域の安全発展を守護下さる神

西殿 天牟羅雲命 旧箕曲氏の祭神

八幡 大神 武門の神

氣長足姫命 神功皇后様で旧志賀井社の祭神

宇賀之魂神 旧稻荷社の祭神 産業発展を守護

東殿 火産 靈神 旧秋葉社の祭神 火災予防を守護

桧尻 社神 御祭神不名三座あり旧桧尻社

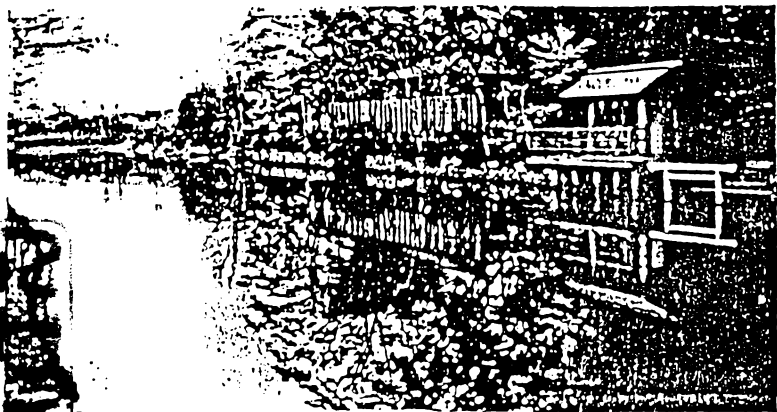
志賀井社神 旧志賀井社の祭神

菅原道真公 旧天神社の祭神 学問の神様

毎月 一日 月次祭

例祭 九月十五日 会式大祭

当社は古来現地に鎮座して船江の産神様として地域の安全発展を守護下さる神様です。皆様御参拝下さい。



池ヶ籠

